

# ペットボトル循環再生

姫路市は23日、家庭ごみとして収集したペットボトルを原料化し、再びペットボトルを製造する「ボトルtOボトル(BtOB)リサイクル」に関する連携協定を、飲料大手「伊藤園」(東京)など3社と締結した。今後、このリサイクルを進めるための工場が地元でできる見通しで、市はごみの減量や二酸化炭素の排出削減につなげたい考えだ。(新良雅司)

## 姫路市3社と協定



ペットボトルの再生に関する協定を結んだ姫路市や伊藤園の関係者ら(姫路市役所で)

## 工場へ推進 ■ 原料化し収集

「PETボトルリサイクル推進協議会」(東京)によると、2019年度の全国のペットボトルリサイクル率は85・8%。ただ、高い技術と多額の初期投資が必要なBtOBのリサイクル率は12・5%にすぎない。多くは繊維やトレイ、シートとして再生され、最終的に焼却処分されている。

姫路市も19年度は329トンのペットボトルを収集したが、BtOBリサイクルの技術を持つ企業が近隣になく、導入しこなかった。

連携協定を結んだのは伊藤園のほか、ペットボトルの原料を製造する「遠東石塚グリーンペット」(茨城県)と、飲料製造「キンキサイン」(姫路市)。

3社は22年度から、市が収集したペットボトルを引き取って再生樹脂を製造

し、その樹脂を原料にしたペットボトルを使った飲料を主に関西エリアで販売する。23年度には、遠東石塚グリーンペットが姫路市内で新たにBtOBリサイクルが可能な工場を操業する予定で、リサイクルが地域内で完結できるようになるという。

伊藤園は25年度までに、「おいしいお茶」ブランドの全製品をBtOBリサイクル素材などに切り替える目標を掲げている。伊藤園の本庄八郎会長は23日、姫路市役所で行われた協定締結式にリモートで出席し、「協定を第一歩に、近隣自治体をはじめ各地に広げたい」と意気込みを語った。

同様の協定は、加古川市など東播磨地域の2市2町がサントリー食品インターナショナル(東京)と結んでいる。